

人生の書『共産主義における「左翼」小児病』に学ぶ

第8回

四国ブロック

無知と無関心からの脱却から階級自覚へ

第9章

イギリスの「左翼」共産主義

レポート要旨

・当時イギリスにはまだ共産党はない  
 (共産党設立は1920年8月)が、  
 設立に向けて議論されている。労働者  
 の間には共産主義運動があり、大きく  
 なっている。

・労働者ソビエトだけが、プロレタリ  
 アートの目的を遂げる手段であり、ソ  
 ビエト的政治家を議会の中へ送り込み  
 議会制度を中から壊し、解散させる任  
 務を議会の中で行うべきである。  
 イギリス共産主義者は議会に参加し、

「反動的な一派である労働党を政権につ  
 かせ、彼らの実績をみせることで、労  
 働者の大多数は短いうちに、自分たち  
 の指導者に失望し、我ら共産主義支持  
 に変わるだろう。」

共産党設立への議論

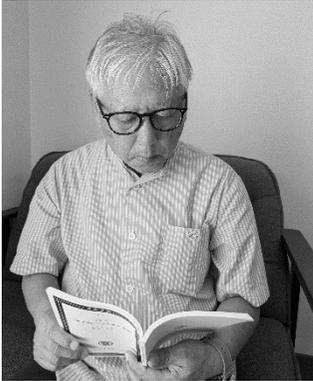
司会(東口)：第9章のレポートは  
 徳島県協の兼廣さんです。この章はイ  
 ギリスの「左翼」共産主義の批判が展  
 開されていますが、この章の概要につ  
 いて説明よろしくお願いします。

兼廣：この章では、ロシア革命当時の  
 イギリスの情勢、この時まだイギリス

には共産党はありませんでしたので、  
 主に共産党設立に向けての情勢、議会  
 とソビエトの選択問題、各党、団体の  
 内情等の報告からレーニンが分析し、  
 科学的な闘争の在り方について説明を  
 試んでいます。特に、真の敵(自由党  
 のロイド・ジョージ、保守党のチャー  
 チル)を倒すための妥協、共闘の指摘  
 はこの章の核心であるかと思えます。

司会(東口)：当時イギリス共産党は  
 設立していませんが、四つの団体で共  
 産党結成の協議がもたれていたと。こ  
 のうちの一つ、労働者社会主義連盟か  
 ら出されていた「ワークアズ・ドレッ  
 ドノート」の編集者シルヴィヤ・パン

## ◆ みんなの学習講座



全体の理解をすすめるため、疑問から深い議論に導いてくれる兼廣さん

クハーストの論文では、これらの団体が、第三インターナショナルの加盟、議会主義にかわるソビエト制度の承認、プロレタリアート独裁の承認を基礎として、単一の共産党を作るために協議をした経過が述べられています。協議の障害としては、議会参加と、日和見主義的な、社会排外主義的な「労働党」と新しい共産党との合同の問題について意見の違いがあったということでした。

### 議会参加の是非

岸本…議会への参加問題について、パ

ンクハーストは「スコットランド労働者評議会」ガラチャーの論文を引用しています。「この評議会は反議会主義的であり……我々はスコットランドの革命運動を代表している。」また「独立労働党の党員大衆が議会について嫌気がさして、ソビエトあるいは労働者評議会を支持している。」「革命的な同志諸君は官製の議員連中を支持すべきではない。」と。

司会（東口）…しかしながら闘争は難しいと書いていますね。そしてそれは革命の利害よりも個人の利害にかられやすい人の裏切りだとしています。

三木…93ページの「議会主義への支持は全て、我がイギリスのシャイデマン一派及びノスケ一派の手に権力を渡すための手助けに過ぎない。ヘンダーソン、クラインズ一派はしようのない反動である。官許独立労働党はますますブルジョア自由主義者の権力に屈服しつつある。……官許独立労働党は

敵意を持つているが、大衆は第三インターナショナルを支持している。その手段がどんなものであろうと、日和見主義的な議会主義を支持するのは右にあげた諸君の手におとらされることにすぎない。……」と述べていますが、つまりはどういうことですか。

司会（東口）…整理するとシャイデマンとノスケというのはドイツの反動政治家であり、イギリスの反動政治家としてヘンダーソン、クラインズが挙げられています。彼らはブルジョア自由主義者に近づきつつあり、彼らが嫌うマクドナルドやスノーデンも同様に反動的であります。大衆は第三インターナショナルを支持している状況にあり、共産主義者から見れば、彼らが担う議会主義を支持するのは、踊らされ彼らに権力を渡すようで納得がいかないということですかね。

吉田…レーニンはその気分は評価して支持すべきとしていますね。ただし、

気分だけではダメだと。ドイツ「左翼」共産主義者が現に犯しており、ロシアの「左翼」ボリシェヴィキが1908年と1918年に犯した、あの全ての過ちの芽生えを示していると言っています。あの過ちとは何でしょうか。

**司会（東口）**…過ちですが、26ページ第4章にありました。1908年が最も反動的な「議会」に参加すべきか、また最も反動的な法律で設立させられている合法的な労働組合に参加すべきかどうかの問題。そして1918年はブレスト講和の時にあれこれの「妥協」を許すべきかどうかの問題が起ったとあります。「左翼」ボリシェヴィキは1905年のツァーリ政権時に、「議会」をボイコットし成功した経緯を基に、この年にも反動的な「議会」への参加を拒絶しました。当時はツァーリ政権に対してのストライキが、大衆的から政治的、革命的なものに転化し、蜂起に繋がったという事情からボ

イコットするのが正しかったのです。

ブレスト講和についても革命的プロレタリアートからすると有害である帝国主義者との妥協であったものの、情勢的には必要な妥協でした。反対だった「左翼共産主義」の代表者も後に自分たちの間違いを認めている、とあります。

### 議員の質が重要

兼廣…先ほどの「個人の利害にかられやすい人たちの裏切り」のくだりですが、ここでの指摘と少し違うかも知れませんが、綱領に社会主義社会の実現を掲げた日本社会党の解散時に、どれほどの議員が階級的な立場にたつたのだろうかと疑問に思いました。強いて言えば新社会党結党に参加した数名だけです。他の議員は「どの党なら議員を続けられるだろうか」と私利私欲に走って、党员、労働者、市民など一顧

だにしませんでした。特に国会議員は社会主義など頭の片隅にも無かったのではないかと思えます。当時それだけの党であったということになりますが、選挙に勝ち、議員を増やすだけでは革命に近づく事ができない、との教訓であるとも言えます。

**井角**…95ページ半ばに、「プロレタリアートがブルジョアジーに勝利をおさめたいと思うなら、彼は自分たちの、プロレタリアの『階級的政治家』、しかもブルジョア政治家におとらないような政治家を、つくりあげなければならぬのである。」とありますね。

**村田**…数の力ですが、議員の思想的な質が何より重要だということですね。

### ロシア革命から運動が活発に

兼廣…共産党がない当時のイギリスで労働者の間には、はつらつとした、広い、力強い共産主義運動があり、大き

## ◆ みんなの学習講座

くなっているということでしたが、どのような経過でしょうか。これはロバート・オーウエンの影響からなのかとも考えたのですが、どうなんでしょうか。須藤…ロシア革命は1917年ですが、これは世界に大きな影響を与えました。日本でも翌年に米騒動が起こったように、イギリスでも労働運動、社会主義運動が盛り上がります。レーニンがこの文章を書いたのが1920年4月末で、その時点ではイギリスに共産党はなかったのですが、この年の8月に共産党が設立されています。イギリスでも様々な分派があり、運動が盛り上がっていた時期だったということですね。三木…イギリスは産業革命で資本主義を真っ先に進めてきたかと思うのですが、資本主義が発展していく中で労働者の意識が芽生えてきたのでしょうか。須藤…そうですね。イギリスは三木さんの言った通り、世界の資本主義の先駆者でもあります。資本主義が発展す

ることによって労働者への搾取は強まり、一定意識が芽生えていったこともあるでしょうが、一方で労働組合の指導部が、資本と提携し、手先になって動く労働貴族や、サンデイカリズムのような急進的労働組合主義も生まれ、彼らは党の存在も否定します。そういった様々な思想が出てきていたのが当時のイギリスです。ヘンダーソンやスノーデンは労働党の一員ではありませんが、ヘンダーソンは労働党の指導者でありながらブルジョアジーの手先でもありました。スノーデンもマクトナルドを支持し、労働党を離れていきます。つまり一方では労働運動の高まりもありながら、一方では労働者の味方のような振りをしながらその運動を潰す勢力もあつたということですね。

### 戦術的な妥協

司会（東口）…ここまではパンクハース

トの論文を見ましたが、レーニンは「イギリスの共産主義者は議会に参加しなければならぬ。議会の中から労働者階級を助けヘンダーソンやスノーデン政府の実績を見せなければならぬ。」と言っています。

大西…ヘンダーソンとスノーデンを助け、ロイド・ジョージやチャーチルの連合に勝たせなければならぬ。これと異なった行動はむしろ革命の事業をやりにくくすることである」とも言っていますね。理由として、労働者階級多数の考え方を変えるのは、宣伝だけではなく、大衆の政治的経験が必要だということですね。「妥協せずにすすめ、道からそれるな」というスローガンは明らかに間違っていて、ヘンダーソンとスノーデンがロイド・ジョージとチャーチルに勝った場合には、労働者の大多数は、短い期間のうちに、自分たちの指導者に失望して共産主義支持に変わるであろう。



1996年、政策合意を交わした、新党さきがけ・武村代表（左）、社会党・村山委員長（中）、自民党・橋本総裁（右）

**岸本**：革命には労働者階級多数の見解に転換がなければ不可能とありますが、転換とはどういうことですか。

**須藤**：転換は大衆の政治的経験によってつくられるとも書かれています。いわば政治に対する無知と無関心からの脱却ですね。階級としての自覚とも言えます。これにはただ大衆に対してこうあるべきだとあれこれ宣伝するだ

けでは難しいので、実際に政治を感じてもらい、経験させるわけです。ヘンダーソンら労働党は政権を握ろうとラブルジョアジーにすり寄っていきませんが、共産主義者としては、とにかくブルジョアジーに勝たせることはダメだとして、まず労働党を支持し、彼らに政権を取らせるのです。大衆に労働党の現実、つまりいかにつまらない党であるかを実際に見せることで、共産主義者と彼らのどちらが正しいのかを知らしめる戦術をとるということです。

**池内**：非常に高度な戦術ですね。今で言うところの新社会党は国会議員もない状況で正直力もないけれども、まずは反自公勢力として立憲民主党を勝たせて、政権を取ってから自分たちの正しさを広げていくといったところででしょうか。

**兼廣**：自社さ政権を思い出しますね。野党に落ちた自民党が、あの時は政権復帰を狙い、社会党とさきがけの村山政権に入っていました。民主党の場

合は、政権を取ったものの、経験不足からか上手く回せずにダメだというレツテルを貼られて今でもその時のことが選挙の度に利用され、自公政権が長期的に政権を取っている現状を生んでいます。そういう意味では自民党はずる賢く、使える手は何でも使うというように上手くやっています。

**須藤**：イギリスでは大多数の労働者や農民も含めこのままではいかんという気持ちが高まってきているなかで、どっちつかずの中間層もおり、ただ単にブルジョアジーはつまらないと言っただけでは分断を生むだけであるということから、このような高度な戦術を取ったということです。イギリスの場合、先ほどレポートからもありましたオーウェン主義の影響は多少あったかもしれませんが、オーウェンはこれより少し前1840年〜1860年辺りであり、この時は既にオーウェンの弟子たちの時代です。この弟子たちはオー

## ◆ みんなの学習講座

ウエンの意思とは違つて反動的な活動をします。むしろ労働組合運動や社会主義運動を否定する側に回るのです。

### 革命の根本原則とは

兼廣…もう一つ疑問なのですが、96ページで、手紙の筆者が言っている「共産党は科学的な基礎に立つて行動すべきだとして、科学はよその国の経験に対する評価を要求する。国の中で活動している勢力、グループ、党、階級、大衆のすべてを評価し、けつしてただ一つのグループないし党の希望と意見、闘争への意識と準備の程度だけを基礎にして政策を決めないことを要求する。」とあるのですが、なぜ、一つのグループや党の希望と意見で政策を決めてはいけなないのでしょいか。

須藤…これは革命家に対する心構えといひますか、常に幅広く意見を聞き、科学的根拠に基づいて情勢分析をして

政策を決めていくべきだということだろうと思ひます。ここでいう評価は分析であり、他の国も含めその国の一部だけでなく、活動している勢力、グループ、党、階級、大衆などあらゆるものの情勢を分析してたかひの方向性を決めることが必要だということですから、もちろん最終的に判断するのは党によるものになるかと思ひます。

司会（東口）…102ページの最後のところ辺りから、レーニンの言葉として革命の根本原則が書かれています。搾取され圧迫された大衆が変更を要求するだけでは不十分で、搾取者がこれまでのように生活し、支配することができなくなることが必要だと。「下層」が古いものを望まず、「上層」がこれまでのようにやつて行けなくなつた場合に初めて革命は勝利すると。

小松…それはどんな状況でしよいか。

須藤…資本家がどのような時に不安を感じ、何を恐れているのかですが、例

えば戦争、そして恐慌、ほかは大災害です。いわば意図しない緊急事態（矛盾）ですね。このような時に資本家が混乱を来すのです。

今はどうかというと、自民党を見れば腐敗が明るみになって相当弱つてきていますが、肝心の労働運動は連合の下で資本・自民党に味方しているので、現状では世の中がひっくり返ることはありませんね。

司会（東口）…これまでの歴史の発展法則でも、生産手段の発展が社会的に矛盾を生み、新しい社会に変わつてきました。現在でも矛盾は止めどなく溢れています。先ほど「転換」というのがありましたか、あとは私たち労働者が階級を意識し、労働者の不満や怒りを集約して、それを階級としての闘いにつなげていくことが必要なのではないでしよいか。

次回からは本編最終となる第10章を学習していきます。